

2024年度 大学入学共通テスト 現代文(本試験) 分析

試験時間 古典とあわせて80分

難易度	出題分量	出題傾向
前年よりやや易化。第1問、第2問ともに前年より解きやすくなった。	文章量は第1問が前年より増加、第2問は減少で、全体としては前年とほぼ同じ。マーク数は第2問で2つ増加した。	全体としては旧センター試験の形式に戻ったオーソドックスな出題であった。第1問 問6、第2問 問7は共通テストの特徴的な出題である。
総評 前年度よりもやや易しい出題である。評論の文章量が増えた分苦手とする生徒は苦労したかもしれないが、設問は比較的素直で迷うところが少なかっただろう。小説は久しぶりの現代小説で読みやすく感じた受験生が多かったかもしれない。設問も解きやすくなった。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	評論	50点	問1は漢字の知識の問題。問2～問4は文章の内容理解の問題。問5は文章構成に関する問題。問6は生徒の作文を推敲する問題であったが、本文の深い読み取りより、生徒の作文を正確に読解することが求められている。
第2問	小説	50点	問1は3年ぶりに言葉の意味の問題が復活。問2～問5は文章の内容理解の問題。問6は表現に関する問題。問7は文章と資料を関連づけて読解する問題で、これまでの共通テストの傾向と同様の出題であった。

高1・2生へのワンポイントアドバイス

大学入学共通テストがスタートしてから独特の出題が続いているが、今年はややオーソドックスな方向に回帰したと言える。日頃の授業、問題演習、模擬試験などを通じて文章の読み方・解き方に習熟することが何よりも大切である。そのうえで、学校の「現代の国語」「論理国語」「国語表現」の授業で行う読み比べや作文の推敲の学習を通じて、共通テスト独特の出題に対応する力を育てておきたい。